

信州大学 正頁 ○石川 清 志
 飛島建設(株) 正頁 谷 本 勉 助
 信州大学 正頁 夏 目 正 太 郎

1. はじめに 本報告書は、直角座標 (x, y) において、 x 方向に無限に長く、 y 方向に亘して有限幅をもつ曲げ剛性一定な均質等方性板に、板の局部に強制的なたわみおよびたわみ速度を与えた板の自由振動解析である。 x の無限に長い境界に対して Fourier 積分の解を採用し、 y の有限な境界に亘して固有関数で表わされ、初期条件で解く方法である。動的問題における Fourier 積分の応用は無限に長い境界をもつ系に適用され、与えられた初期条件のもとで解く方法が一般である。とくに、無限長梁、幅の広い膜等に局部的作用の初期条件で解く方法は古来からよく知られた動的解析であり、今日すでに解決済である。しかしながら、無限の境界を表わすところの Fourier 積分と、有限境界による固有関数の組み合わせからなる板の振動解析は我々の知る限りではあまり試みられていないように思われる。

本報告書は、無限の境界による Fourier 積分の変数 y に従属して、有限の境界による固有関数が誘導されるが、この固有関数の取り得る固有値すなわち円振動数 ω_n は y と一定な関係があり、 y の境界条件により異なる。また、固有関数は、単純支持-単純支持を除いた通常の境界条件に対して固有関数の直交性がなく、ここでは固有関数を別系列の直交関数列で再展開して解析を行う。与える初期条件については、無限板の中央に、部分分布したたわみおよびたわみ速度を時刻 $t=0$ の瞬時に与え、Fourier 積分は Simpson 数値積分を用いて行う。

2. 解析について 曲げ剛性一定な均質等方性板の振動方程式は次のように表わされる。

$$\nabla^4 w = -c^2 \frac{\partial^2 w}{\partial t^2}, \quad c^2 = \frac{\rho}{D}. \quad (1)$$

w は板のたわみ、 D は曲げ剛性、 ρ は密度である。 x に亘して無限、 y に亘して有限な境界条件について式(1)を満足する解 w は次のように表わされる。

$$w = \int_0^\infty dy \sum_{n=1}^\infty [\cos \alpha y \quad \sin \alpha y \quad \cos \beta y \quad \sin \beta y]_n N_n \begin{bmatrix} \cos y x \cos \omega t \\ \cos y x \sin \omega t \\ \sin y x \cos \omega t \\ \sin y x \sin \omega t \end{bmatrix}_n, \quad N_n = \begin{bmatrix} A_1 & A_2 & A_3 & A_4 \\ B_1 & B_2 & B_3 & B_4 \\ C_1 & C_2 & C_3 & C_4 \\ D_1 & D_2 & D_3 & D_4 \end{bmatrix}_n. \quad (2)$$

ここに、 $\alpha = \sqrt{c\omega - \gamma^2}$ 、 $\beta = \sqrt{c\omega + \gamma^2}$ 、 N_n は未定積分常数である。

境界条件を満足するようにすると、 y に従属して、固有値方程式と固有関数 $Y_n(y)$ が求まり、式(2)は次のように表わされる。

$$w = \int_0^\infty dy \sum_{n=1}^\infty Y_n(y) [\cos \omega t \quad \sin \omega t]_n \Omega_n \begin{bmatrix} \cos y x \\ \sin y x \end{bmatrix}, \quad \Omega_n = \begin{bmatrix} D_1 & D_3 \\ D_2 & D_4 \end{bmatrix}_n. \quad (3)$$

y を与えることにより、固有値方程式と満足する ω_n を求めることができる。そのため、Fourier 積分も Simpson 数値積分の分割ステップで y に数値を与えると、 y と ω_n の関係は次のように対応して定義することができる。

$$\begin{aligned} \gamma_0: & \omega_{01} \quad \omega_{02} \quad \omega_{03} \quad \dots \\ \gamma_1: & \omega_{11} \quad \omega_{12} \quad \omega_{13} \quad \dots \\ \gamma_2: & \omega_{21} \quad \omega_{22} \quad \omega_{23} \quad \dots \\ \vdots: & \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \end{aligned}$$

ソの境界条件を固定-自由とした場合、 γ と ω_n の關係は
図-1のように示される。板の曲げ振動における初期条件、
たとえば

$$\left[\frac{\partial w}{\partial t} \right]_{t=0} = \begin{bmatrix} u(x, y) \\ v(x, y) \end{bmatrix}, \quad (4)$$

を与えることによって、 Ω_n を決定することができれば、終
局において、境界、初期条件と満足する0<tにおける板の
自由振動は完全に解決し得るようになる。式(4)の右辺既知
項をFourier積分で書き換えると

$$\begin{bmatrix} u(x, y) \\ v(x, y) \end{bmatrix} = \int_0^\infty \begin{bmatrix} \cos \gamma x \\ \sin \gamma x \end{bmatrix} d\gamma, \quad \Phi(\gamma) = \frac{1}{\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \begin{bmatrix} u(\xi, y) \\ v(\xi, y) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \cos \gamma \xi \\ \sin \gamma \xi \end{bmatrix} d\xi. \quad (5)$$

式(3)、(4)、(5)から、 γ について、次の方程式を得る。

$$\sum_{n=1}^{\infty} Y_n(\gamma) \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & \omega_n \end{bmatrix} \Omega_n = \Phi(\gamma). \quad (6)$$

$Y_n(\gamma)$ は単端支持-単端支持以外の境界条件の場合、 $Y_n(\gamma)$ の
直交性はなく、列系列の直交関数列Fourier sine級数で再展
開して Ω_n を決定する。

3. 数値計算例 図-2に示

すように、境界条件は固定-自由
とし、初期条件は初期速度
 $v(x, y)$ のみを与えるものとする。

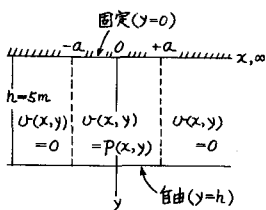


図-2. 初期速度の作用領域

$u(x, y)$ の関数および作用領域

$$u(x, y) = \begin{cases} 0, & (x < -a) \\ P(x, y), & (-a \leq x \leq +a) \\ 0, & (x > +a) \end{cases}$$

$$P(x, y) = 0.0128 \left(\cos \frac{\pi}{a} x + 1 \right) x (h^2 y^2 - 2h y^3 + y^4),$$

$$h = 5m, \quad a = 2m,$$

である。表-1は与えた初期
速度 $u(x, y)$ に対して、得ら
れたt=0のときの速度を示
したものである。

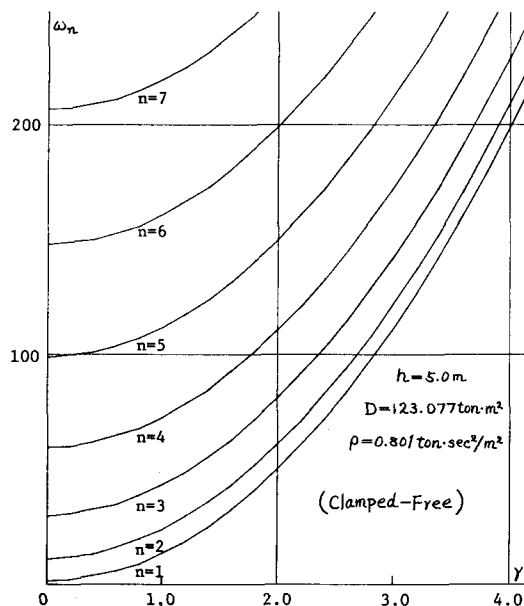


Fig. 1. Relationship between γ and ω_n

Table 1. Convergence in Fourier Integrals and Eigenfunction Expansions for Initial Velocity, Clamped ($y=0$) - Free ($y=h$)

Abscissa	Specified initial velocity $v(x,y)$	Computed velocity $\left[\frac{\partial w}{\partial t}\right]_{t=0}$			
		$\Gamma=4.0, N=7,$ $s=0.04$	$\Gamma=2.0, N=11,$ $s=0.04$	$\Gamma=5.0, N=5,$ $s=0.1$	$\Gamma=4.0, N=10,$ $s=0.2$
y (m)		(x = 0)			
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.5	0.1296	0.1304	0.1217	0.1314	0.1297
1.0	0.4096	0.4093	0.3846	0.4076	0.4103
1.5	0.7056	0.7072	0.6619	0.7015	0.7065
2.0	0.9216	0.9230	0.8648	0.9200	0.9230
2.5	1.0000	1.0004	0.9380	0.9991	1.0012
3.0	0.9216	0.9243	0.8651	0.9165	0.9228
3.5	0.7056	0.7057	0.6622	0.7000	0.7068
4.0	0.4096	0.4089	0.3845	0.4157	0.4095
4.5	0.1296	0.1374	0.1230	0.1331	0.1326
5.0	0.0	-0.0744	0.0357	-0.1175	-0.0399
x (m)		(y = 2.5 m)			
0.0	1.0000	1.0004	0.9380	0.9991	1.0013
0.5	0.8536	0.8532	0.8284	0.8581	0.8540
1.0	0.5000	0.4958	0.5520	0.5001	0.4963
1.5	0.1465	0.1503	0.2368	0.1461	0.1504
2.0	0.0	-0.0018	0.0089	0.0007	-0.0017
2.5	0.0	-0.0024	-0.0756	0.0003	-0.0024
3.0	0.0	0.0060	-0.0474	0.0009	0.0060
3.5	0.0	-0.0043	0.0164	-0.0015	-0.0043
4.0	0.0	-0.0003	0.0481	0.0015	-0.0003
4.5	0.0	0.0034	0.0296	-0.0013	0.0034
5.0	0.0	-0.0025	-0.0112	0.0007	-0.0025

Note; Γ : Upper limit of mechanical quadrature, N: Number of eigenvalues, s: Step in Simpson's rule.